

天体観測ドーム 今月のOPEN

日没から午後9時30分まで（晴天時のみ）

1日(土)・2日(日)・8日(土)・9日(日)・15日(土)・16日(日)
・19日(水)・20日(木)・22日(土)・23日(日)・27日(木)～31日(月)

3/

星空通信



2025年3月号

★今月の惑星情報★

7日 上弦	20日 海王星が合
8日 水星が東方最大離角	22日 下弦
12日 土星が合	23日 金星が内合
14日 満月/皆既月食	24日 土星の環の消失
15日 水星が留	25日 水星が内合
	29日 新月

用語解説

りゅう
留…惑星が順行⇄逆行へ変わる時、地球から見た天体上で、太陽からもっとも離れる瞬間

ごう
合…地球から見て惑星が太陽と同じ方向に来るとき

ないごう
内合…地球-内惑星-太陽と並んだ時

とうほうさいだいいりかく
東方最大離角…地球から見た天体上で、太陽の東に最も

水星が東方最大離角

3月8日に水星は東方最大離角となり、その日の前後には日の入り直後の西の低空で水星を見つけやすくなります。東京では3/4から12日間、日の入り30分後の水星の高度が10度を超えます。ほかの地域でも大きな違いはなく、水星を観察できる好機です。今回は、水星よりも少し高い位置に明るい金星が輝いています。水星は空の低い位置に見えるため、西の空が開けている場所で観察する必要があります。また、低空に雲がなく、よく晴れた日が観察には最適です。夕焼けが残る空で水星が探しづらい時は、双眼鏡を使うと探しやすくなります。双眼鏡を使うときは、太陽を見ないように、太陽が沈んでから観察を始めるようにしてください。

水星★

日の入後の西の低空に位置。8日に東方最大離角となる。4日～12日の明るさは-0.8～0.3等。その後は徐々に光度を下げ25日に内合となり、以後は日の出前の東の低空に位置する。下旬は見かけの位置が太陽に近く、観察は難しい。

金星★

上旬は日の入り後の南西から西の空に見えるが、中旬以降は高度がさらに低くなり、観察が難しくなる。23日に内合になり、以後は日の出前の東の低空に位置する。

火星★

ふたご座を東に移動。宵の南から南西の空に見え、明るさは-2.3～-2.1等。

木星★

おうし座を東に移動。宵の南西から西の空に見え、明るさは-2.3～-2.1等。

土星★

上旬は日の入り直後の西の低空に位置しているが、12日に内合となり、以後は日の出前の東の低空に位置する。見かけの位置が太陽に近く観察は難しい。24日4時に土星の環の消失現象（土星が地球に対して横を向く）が起きますが、日本では土星が昇る前の時間帯です。